

# 回 答 書

- 1 町名変更提案者である町長は、発案はいつ頃で、公的な場での発表の場は何時でどのような場所ですか。また、公的に明らかにする前に理事者間、庁内職員等関係者との相談や擦り合わせが必要ですが、しっかりコミュニケーションは取れていましたか。

(回答)

町名変更について私が本格的に意識し始めたのは、まだ神戸市議員であった令和4年度頃からです。当時、百貨店などで「北海道十勝産」「十勝産」と表示された商品が強く選ばれている現場を目の当たりにし、十勝という名称には、すでに全国的なブランド価値があるという実感を持つようになりました。

一方で、清水町については、「十勝清水」という名称が、以前から日常的に使われているものの、正式名称は「清水町」であり、全国に“清水”という地名が複数存在するため、十分に届きにくい場面があるという「惜しさ」を強く感じていました。

その後、令和7年2月28日に町長へ就任し、3月20日には新得町長・鹿追町長とお会いし、町名の在り方についても意見交換をさせていただきました。その際、「町名は町民が決めること。遠慮する必要はない。」というお言葉をいただき、背中を押されたことも事実です。

同年4月初旬には、副町長へ私の考えを率直に伝えました。当初は、令和7年6月議会で正式に提起することを念頭に置いておりました。ところが、4月22日の清親会において「清水町の可能性」というテーマで講話をした際、十勝清水という名称にも可能性があるという趣旨の話をしたところ、その内容が記者の方により記事化され、翌朝の新聞で報じられることとなりました。

このため、翌23日に臨時庁議を開催し、経緯と私の考えを庁内に正式に説明いたしました。そして、町民の皆さまへ正式にお伝えした最初の公的な場は、令和7年6月議会一般質問での答弁です。ここで初めて、町名変更について明確に申し上げました。

庁内での共有については、重大なテーマである以上、理事者間での協議や庁内での情報共有を図りながら進めてまいりましたが、すべての職員と十分に議論を尽くしたと言い切れる段階ではなかったことも、率直に認めたいと思います。

ただし私は、町名の在り方は、最終的には町民の皆さまが判断されるべきテーマと考えており、議会という公的な場でまず方向性を示し、そこから「町民の皆さまとの対話を中心に進める」というプロセスこそ重要であると判断いたしました。

- 2 町名変更は、全町民の現在・未来の生活において、直接的にも間接的にも大きな影響を及ぼす重大な問題です。令和8年10月を目途に町名変更を考えているようですが、町民が判断するための十分な説明を尽くすには多くの時間が必要と思いますが、残された時間は正味1年もなく、とても住民に対する丁寧な説明が十分に行き届くとは思えません。この点について町長はどのように考えていますか。

(回答)

町名変更は、現在の暮らしだけでなく、将来世代にも影響し得る、非常に重要なテーマであ

ると認識しています。そのため、町民の皆さまに十分にご理解いただいたうえで判断していただくことが不可欠であるというご指摘については、まったくそのとおりと受け止めています。

まず背景として、人口減少・産業構造の変化・地域間競争の激化など、私たちを取り巻く環境は近年これまでにないスピードで変化しています。観光・移住・企業誘致などの分野では全国的な競争が進み、インターネット検索や予約サイト、SNS等の場面で、自治体名の分かりやすさ・認知度が選択の有無に直結する傾向が強まっています。

こうした外部環境の変化を踏まえ、清水町としても未来に向けて、総合計画の目標達成に向けた観光振興や関係人口づくり、企業誘致、人材確保といった各分野で中長期的な取り組みを展開していく必要があります。その際、町の名称はすべての施策の“基盤”となる要素であり、途中で名称が変わる場合にはPRや投資判断にも影響が及びます。

したがって、今後5年、さらには数十年という単位で町づくりを考えるのであれば、名称の在り方についても、早い段階で方向性を整理しておく必要があると判断したものです。

一方で、町名変更は決して拙速に決めてよい問題ではありません。そのため、情報提供の期間を設けることや説明会等でご意見を伺うこと、そして最終的には住民投票で町民の皆さまに判断いただくことといった一連のプロセスを事前に整理し、スケジュールとして“見える化”したうえで進めています。「結論ありきで急いでいる」ものではなく、社会の変化に対応していくため、議論のスタートを早めに切ったという位置づけです。

また、説明の機会が十分かどうかについては、皆さまのお声も踏まえながら、説明の方法や意見聴取の機会、必要に応じた期間調整などについて、柔軟に見直す姿勢で臨んでおります。

いずれにいたしましても、この議論が町民の皆さま一人ひとりにとって「自分ごと」として考えていただけるだけの時間と材料を整えることが、行政の責任だと考えています。そのうえで、冷静で公正な判断をしていただけるよう、引き続き丁寧な説明を尽くしてまいります。

**3 町長は、これまで「これからの清水町については一端リセットして考えていく必要がある」旨の発言をされているが、リセットとは初期の状態に戻すということでしょうか。様々な歴史を積み重ね今の清水町が存在しているので、この発言は好ましくないと思っておりますが、町名変更は、町をリセットする意味合いもあるのでしょうか。**

(回答)

ご指摘のあった発言については、どの場面での発言なのか定かではありませんが、清水町のすべてをリセットするとの意図はありません。これまで積み重ねてきた清水町の歴史をしっかりと継承しながら、新しい発想のもと新しい時代の要素を少しずつ積み重ねていく、そのような姿勢でまちづくりを行っていく考えであり、町名変更の議論もその考えのもと進めております。

**4 町名変更は町長の戦略なのか、または戦術なのかお聞きしたい。仮に戦略として考えているならば、対策上の具体的な戦術（事業や施策）についてお聞きしたい。また、戦術として考えているのであれば、町づくりの長期的な戦略を示して頂きたい。**

(回答)

町名変更は、「町の認知度向上・ブランド力向上」という中長期の戦略目標を支えるその一つ

の“戦術的手段”という位置づけで捉えています。

つまり、町名変更それ自体が目的ではなく、清水町の名前をより知っていただくこと、全国の中で選ばれる町になること、将来世代の暮らしや経済の土台を強くすること、これらを目指すうえで一つの手段であると考えています。

なぜ「戦術」だと考えているかですが、近年、人口減少や産業構造の変化、地域間競争の激化など、私たちを取り巻く環境はこれまでにないスピードで変化しています。観光・移住・企業誘致といった分野では、インターネット検索や予約サイト、SNS等において自治体名の分かり易さ・認知度が選択の有無に直結する傾向が強まっています。こうした状況の中で、清水町としては、総合計画の目標達成に向けた観光振興や関係人口づくり、企業誘致、人材確保といった各分野で、中長期的な取り組み（＝戦略）を展開していく必要があります。

その際、町の名称はすべての施策の“基盤”となる要素であり、途中で名称が変わる場合には、情報発信や投資判断にも影響が及びます。したがって、今後5年、さらには数十年という単位で町づくりを考えるのであれば、名称の在り方についても、早い段階で方向性を整理しておく必要があると判断したものです。

大切な点として、私は町名変更だけで、町が大きく変わるとは考えていません。

むしろ、観光や産業、教育、交流人口、移住・定住といった施策と組み合わせて進めてこそ、総合的なブランド戦略として意味を持つと考えています。

町名は暮らしと心に深く関わるものです。だからこそ、行政だけで決めるのではなく、十分な情報提供と意見交換を行い最終的には住民投票で判断いただくという手順を重視しています。

まとめとして、戦略目標として「清水町の認知度・ブランド力向上」、戦術手段の一環としての町名変更案、前提条件として町民理解と合意形成を何より重視し、長期視点でみた5年から数十年単位の町づくり基盤をつくるという整理になります。

5 ブランド力をつけるため町名変更を行うというが、「十勝」をつけることによってブランド力が高まるとの見方にどれほどの確実性があるか、物産や観光そして関係人口など数値的にはどの程度効果が高まるのか具体的に根拠を示して頂きたい。つまり、住民のアイデンティティを損なう以上のメリットがあるのかどうか判断する上で、「十勝」をつけることでどれだけメリットがあるか、「ふるさと納税」の見込み額、「十勝清水町の物産」がどれだけ多く売れるのか、観光客がどの程度増えるのかなど具体的数値を挙げて示して頂きたい。

(回答)

「十勝を付けることで本当にブランド力が高まるのか」「どの程度の数値的な効果が見込めるのか」というご質問は、まさに町名変更の是非を考えるうえで核心に関わる、大変重要なご指摘だと受け止めております。

まず前提として、町名変更による効果を、具体的な数字で“これだけ増える”と断定することは現時点ではできないと考えております。

観光客数や物産の売上、ふるさと納税額、移住者数、関係人口などは、各種イベントやPRの取り組み、道路や公園などインフラ整備、事業者・地域団体の努力、全国的な景気・人口動態の流れといった、数多くの要因が重なり合って決まります。

そのため、「町名変更だけで観光客が〇万人増える」とか、「ふるさと納税が〇億円増える」

といった形で、町名変更“単独”の効果として数値をお示しするのは、現実的ではなく、かえって町民の皆さまとの信頼関係を損ねかねないと考えています。

一方で、「十勝」という名称が、道内外で一定の認知度やイメージを持っていることは事実であり、この名前を正式名称に組み込むことで、「場所がイメージしやすくなる」、「地図や検索、予約サイトなどで“十勝”と結びつきやすくなる」といった意味で、ブランド力向上につながる可能性はあると考えています。

ただし、それを「確実に〇%上がる」とまでは言えない、というのが正直なところです。

そのうえで町としては、町名変更を含む総合的なブランド戦略の成果を、中長期で数字として検証していくという方針をとりたいと考えています。

具体的には、例えば次のような指標について、5年程度のスパンで「現状比」での目標値を設けることを検討しています。

- ・ 観光入込客数
- ・ ふるさと納税額
- ・ 体験住宅等の利用件数
- ・ 移住相談件数
- ・ 企業からの問い合わせ件数 など

これらについては、達成可能性を慎重に見極めながら、無理のない“レンジ目標（幅を持った目標）”として設定することを基本としてまいります。そして、設定した目標については、進捗状況を公表すること、想定どおりでない場合も隠さず共有すること、必要に応じて施策そのものを見直すことといった、説明責任を伴う形で運用することをお約束します。

併せて、ご指摘のとおり、町名変更は「住民のアイデンティティー」にも深く関わる問題であり、そこに伴う不安や喪失感を上回るだけのメリットが本当にあるのか、という問いは極めて重いものだと受け止めています。

ですので、期待される数値的な効果については「可能性」として正直にお伝えしつつ、その実際の成果は、今後のモニタリングと検証を通じて町民の皆さまと共有し、必要な軌道修正も含めて、長期的なまちづくりの中で責任を持って向き合っていく、そのような姿勢でこの町名変更の議論に臨んでいきたいと考えております。

6 町長は令和7年度第7回定例会においての町議の質問に対し、「ふるさと納税」の目標額について寄付額なので示すことができないとし、数値が示されていないから挑戦しないというのは町にとって大きな損失だとまで発言しておりますが、私は挑戦するのでも最低限の準備が必要で、その準備が無ければ無謀に過ぎないと思います。町長の発言の真意を理解できるようにお聞かせ頂きたい。

(回答)

ご指摘のとおり、私は令和7年第7回定例会において、「ふるさと納税の目標額については、寄付という性質上、確定的な数字を提示することは難しい」、「しかし、数値が示されていないからといって挑戦しないのは、町にとって大きな損失になり得る」という趣旨の発言をいたしました。

この発言で申し上げたかったことは、“結果が完全には読めない取り組みであっても、将来の

可能性を閉じず、前向きに挑戦していく姿勢が必要である”ということです。決して、準備不足のまま無謀に進めるとか、リスクを顧みずに突き進むといった意味ではありません。

むしろ、挑戦にあたっては当然ながら、「リスクの整理」、「財政への影響の確認」、「住民・事業者の皆さまの手続き案内」、「負担を軽減するための具体策」といった必要な準備を整えたうえで進めることが前提であると考えています。

そのうえで私は、「結果が完全に読めない以上、挑戦はすべきではない」という姿勢を取ってしまうと、将来の可能性を自ら狭めてしまうのではないかと、そのような問題意識を持っています。もちろん、挑戦には責任が伴います。そのため、進捗状況や成果はできる限り公開し、想定どおりでない場合にはきちんと検証し、必要に応じて施策の方向性を見直すという形で、説明責任と修正可能性を担保しながら進めていくべきものだと考えています。

いずれにいたしましても、私の発言は「準備を軽視する」という趣旨ではなく、十分な備えのうえで、将来の選択肢を広げる挑戦を続けていくべきだという考えを申し上げたものであることを、改めてお伝えさせていただきます。

**7 町名変更の最終判断を住民投票に委ねた上で決定していくとお考えですが、これは結果的に提案者である町長責任を町民に丸投げすることになりませんか。下手をすれば町民の分断に繋がる危険性も孕んでいます。単に町民の意見を聞き判断材料というだけならアンケートでも済むと思いますが、その辺のお考えをお聞かせ頂きたい。**

(回答)

まず、「住民投票に委ねることが、結果として町長の責任放棄や町民への丸投げになるのではないか」、「町民の分断につながるおそれがあるのではないか」というご懸念は、たいへん重く受け止めております。

そのうえで、私の考えとして、なぜ住民投票なのか(アンケートとの違い)についてですが、私どもは、今回の町名変更の議論にあたり、町民の皆さまのお声を多面的に伺うことが重要だと考え、まちづくり懇談会や個別のご意見・ご提案、議会でのご議論など、いくつもの機会を通じてご意見を頂いてきました。

一方で、「賛成か反対か」という形式の町民アンケートを行っていない理由は、最終的に「住民投票」という、より明確で正式な意思決定手続きを予定しているためです。

アンケートは大切な意見把握の手段ですが、回答する方の層に偏りが生じやすいこと、質問文の表現によって印象が変わりやすいこと、結果の数字だけが一人歩きしやすいことといった課題があります。

特に、賛否を数値化したアンケート結果だけが先行しますと、その数字だけが強く意識され、町の皆さま同士の思いや考えが、必要以上に「対立構造」として受け止められてしまうおそれがあると判断しました。

そのため私どもは、アンケートで“仮の結論”を出すのではなく、できる限り丁寧に情報提供と対話を重ねたうえで、正式な住民投票によって、町民の皆さまに最終判断をいただくという手順が、公正で責任ある進め方だと考えております。

「責任の丸投げ」とのご指摘については、住民投票を行うからといって、町長や行政の責任が軽くなるわけではありません。「町名変更というテーマを提案した責任」、「情報を集め、整理し、

町民の皆さまへ分かりやすく説明する責任」、「賛否双方の不安や疑問に答える責任」、これらは、行政と町長が負っている責任であり、決して住民の皆さまに丸投げできるものではありません。

そのうえで、町名のように町のアイデンティティそのものに深く関わる問題については、行政だけで決めるのではなく、最終判断は町民の皆さまの意思で決めていただくべきだと考え、住民投票という手続きにしたものです。

結果については、もちろん町長として政治的責任を負う立場であることに変わりはありません。

分断のリスクについては、ご指摘のとおり、住民投票には「賛成」「反対」という構図が明確になる側面があり、その点で分断のリスクが存在することも、私どもは認識しています。

だからこそ、賛成・反対のどちらの立場も尊重すること、相手を否定したり、レッテル貼りをするような雰囲気をつくらないこと、行政として、どちらか一方を煽るのではなく、事実と影響をできる限り公平にお示しすることを大切にしながら、議論の場づくりを進めていきたいと考えています。

町外調査については、町外の方々に対して清水町の認知度やイメージに関する調査を実施しましたが、これは清水町がどの程度知られているのか、どの名称なら場所がイメージしやすいのか、といった客観的なデータを把握するためのものであり、「町名変更の賛否」を問うものではありません。あくまで「清水町の将来戦略を考えるための参考情報の一つ」として位置づけています。

まとめとして、住民投票は、責任の丸投げではなく、町のアイデンティティに関わる問題を町民自身の意思で決めていただくための正式な手続きと考えていること、行政と町長には、提案する責任・説明する責任・結果に向き合う責任があること、分断のリスクを意識しつつ、対立を煽らない丁寧な情報提供と対話の場づくりに努めること、この3点を、改めてお伝えしたいと思います。

今後も、まちづくり懇談会や説明会、個別のご相談など、さまざまな機会を通じて、町民の皆さまの声を丁寧に伺いながら、住民投票という正式な手続きに向けて進めてまいります。

**8 最後に、道内において過去に町名変更（合併以外）の議論が持ち上がり検討した経緯がある市町村があれば参考になります。十分調査はしたとは思いますが再度その辺を確認し、もしあれば内容をお聞きせ頂きたい。**

(回答)

道内において過去合併以外で町名を変更した事例は、1990年（平成2年）に宗谷管内の東利尻町が利尻富士町に変更した例があります。変更した理由としては、ホームページ等によりますと、「町のイメージを変えて若者が夢と希望と誇りをもって定住できる町にしなければならぬ」、「現在の町名は単に利尻島の東側に位置していることだけで、歴史や文化に由来のあるものではないため利尻町と比較して全国の知名度に欠ける」、「本町の産品であるにもかかわらず利尻町産品と間違われる事例が往々にある」の3点があげられ、町の知名度向上による活性化と親しみと誇りを持てる町への発展を図るため、利尻のシンボルである名峰利尻富士の名称を冠したとあります。

本町においても、十勝というブランド力がある地名を冠し町の知名度向上による活性化と、

中長期的なまちづくりを展開してまいります。